様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：２３４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０２２１１

研究課題名（和文）クリティカル多文化実践におけるデジタル・ストーリーテリングの活用

研究課題名（英文）Digital storytelling in critical multicultural practice

研究代表者
舟木　紳介（Funaki, Shinsuke）

福井県立大学・看護福祉学部・准教授

研究者番号：５０３１５８４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、多民族・多文化社会において、デジタル・ストーリーテリングが移民コミュニティの地域社会における社会的結束にどのような意義を持っているかについて、オーストラリア・シドニーをフィールドとして調査・分析し、クリティカル多文化実践をめざした新たな多文化ソーシャルワーク実践モデルを構築することを目的として調査研究を行なった。コロナウイルス感染症蔓延の状況下で、オーストラリアでの現地調査は1回のみであったが、オンラインの調査も合わせて実施した。最終年度には、調査全体の分析および成果公開のために「デジタルストーリーテリング実践のためのマニュアル」を作成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
オーストラリアでは、1990年代に日本、韓国などのアジア諸国のミドルクラス技術移民・国際結婚移民が急増する一方で、そのようなミドルクラス移民は、社会福祉サービスを必要としない社会・経済資本を持つ集団とみなされ、これまで調査研究の対象となってこなかった。本研究では、社会的結束を目指したデジタル・ストーリーテリングの実践がミドルクラス移民コミュニティの文化的、社会的、政治的な参加促進にどのように影響を与えているかについても検討することができた。

研究成果の概要（英文）：This study tried to investigate the meaning of digital storytelling for social cohesion of migrant community in the multicultural society in Sydney, Australia and construct a new multicultural social work practice model to critical multicultural practice. In the circumstance of Covid19, we conducted the field research as well as online interview research in Sydney. In the final year we were able to create a manual of digital storytelling practice for analyzing the whole research and publish the research results.

研究分野：ソーシャルワーク

キーワード：デジタルストーリーテリング　オーストラリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

2014 年にオーストラリア・メルボルンで開催された国際ソーシャルワーカー連盟世界大会において 14 年ぶりに「ソーシャルワークのグローバル定義」が改訂され、ソーシャルワークの中核的使命として、社会変革、社会開発、社会的結束、多様性の尊重が強調された。このことは経済的視点に加えて、新たな社会的結束（Social cohesion）の視点からソーシャルワーク実践に関心が向けられるようになってきたことも影響している(Delandy 2007)。また、本申請者が平成 29 年～30 年に実施した調査によれば、1970 年代にオーストラリアに登場した「公定多文化主義政策」は、この国を世界で最も多文化・多民族化が進んだ社会の一つとなしえた（バンティング 2008)。一方で、多文化主義政策は、社会内の多様性を担保しつつその統合を目指すという困難な課題と向き合い続けてきた。

今世紀に入ってから、オーストラリアでは社会的結束に対して重点を置いた多文化主義政策の見直しが進められることとなった。例えば、2006 年には「社会的結束、調和、治安に関するナショナル・アクション・プラン」が制定された。この計画では、民主主義や法の遵守といった「オーストラリア」の価値規範を、教育活動やコミュニティ実践によって移民に周知させると同時に、その価値規範の共有によって移民コミュニティと社会の主流のコミュニティとの社会的結束を目指す政策が導入されるようになった（Andrews 2007)。

近年オーストラリアの多文化ソーシャルワーク理論は、クリティカル・ソーシャルワーク理論を基盤として、独自に「クリティカル多文化実践」として発展し、新たな多文化ソーシャルワーク理論と実践の構築を進めてきた（Nipperess and Williams 2019)。その中でも、移民・難民の社会的結束を目指した「クリティカル多文化実践」として、デジタル・ストーリーテリングという手法が取り入れられている（Lennete 2013)。デジタル・ストーリーテリングとは、自分の生活や記憶についての 2 分程度の映像ストーリーを当事者の語り、写真、音楽を組み合わせて、iPad などのタブレット端末で制作する実践方法である。オーストラリアのデジタル・ストーリーテリングの実践および研究の蓄積は、日本における社会的結束をめざした新たな多文化ソーシャルワーク実践の先駆的モデルとして参照する価値がある。

２．研究の目的

多民族・多文化社会において、デジタル・ストーリーテリングが移民コミュニティの地域社会における社会的結束にどのような意義を持っているかについて、オーストラリア・シドニーをフィールドとして調査・分析し、クリティカル多文化実践をめざした新たな多文化ソーシャルワーク実践モデルを構築することである。

３．研究の方法

研究期間の前半は、主にクリティカル多文化実践に関する文献やオーストラリアの移民定住支援分野におけるソーシャルワークに関する文献について、分析を行った。また、研究期間を通して、コロナウイルス感染症の世界的な蔓延の状況下において、当初予定していたオーストラリアでのデジタルメディアに関する先進事例調査や文献収集調査が中止や延期となった。その代替え措置として、オーストラリアの共同研究者らとはビデオ会議システム Zoom による定期的な協議や日本国内の多文化共生施策とデジタルメディア実践の事例を検討するために、多文化共生に関わる研究会及び外国人当事者や多文化共生に関する研究者らへオンラインによるインタビュー調査を共同研究者らとともに実施した。

また文献調査やインタビュー調査で得た成果を活かして、福井県内で複数回にわたって「外国人のためのデジタル・ストーリーテリング・ワークショップを福井県内のソーシャルワーカーと共同で実施し、その成果をデジタル・ストーリーテリングマニュアルとして実践手法の開発を試みた。

４．研究成果

令和 2 年度は、前半は主にクリティカル多文化実践に関する文献やオーストラリアの移民定住支援分野におけるソーシャルワークに関する文献について、分析を行った。コロナウイルス感染症の世界的な蔓延の状況下において、当初予定していたオーストラリアでのデジタルメディアに関する先進事例調査や文献収集調査が中止となった。その代替え措置として、オーストラリアの共同研究者らとはビデオ会議システム Zoom による定期的な協議を行う整備を行った。また、

日本国内の多文化共生施策とデジタルメディア実践の事例を検討するために、多文化共生に関わる研究会及び外国人当事者や多文化共生に関する研究者らへインタビュー調査を共同研究者らとともに実施し、多文化ソーシャルワーク実践に関する専門的知識の提供を受けた。特にコロナ禍の状況において、日本国内に在住する外国人当事者の人たちがどのような困難や課題を抱えているかについて、最新の動向を聞き取ることができた。

加えて、オンラインによるデジタル・ストーリーテリング・ワークショップを試験的に福井県内のソーシャルワーカーらと共に実践し、効果を検証した。そして特にデジタル・ストーリーテリングのシナリオ制作部分については、オンライン上においても十分に効果的な実践ができることが明らかになった。さらにデジタルストーリーテリングに関する学生対象の研修会を複数回実施し、その後、福井県内のソーシャルワーカーとともにオンライン DST ワークショップ実施に向けた準備を行った。

令和 3 年度は、前半は、主にクリティカル多文化実践やデジタルメディア実践に関する文献を収集し、分析する作業を行った。加えて、海外で実施されたデジタルストーリーテリングの上映ワークショップにオンラインで参加し、移民・難民に対するデジタルメディア実践に関する最新動向を把握することができた。この年度においても、コロナウイルス感染症の世界的な蔓延の状況が継続し、当初予定していたオーストラリアでのデジタルメディアに関する先進事例調査やインタビュー調査が中止となった。その代替え措置として、日本国内の多文化共生施策とデジタルメディア実践の事例を検討するために、多文化共生に関わるオンライン研究会を開催し、外国人住民に対する多文化共生の実践に関する最新の動向について把握することができた。

また、日本国内の多文化共生に関する研究者・実践者らへインタビュー調査を共同研究者らとともに実施した。加えて、新たな研究の視点として、多文化共生とインバウンドの関係やデジタルメディア戦略についても、オンラインによる聞き取り調査を行い、短期滞在を目的とするインバウンドに関わる外国人経営者や外国人労働者が長期滞在に移行し、地域住民との関係において多文化共生の課題が生じてきた問題について実態を把握することができた。また、デジタルメディア制作に関する学生対象の研修会を複数回実施し、令和 4 年度に実施予定の福井県内でのデジタルストーリーテリング・ワークショップ実施に向けた準備を行った。

令和 4 年度は、3 年度に引き続きコロナウイルス感染症の世界的な蔓延の状況が継続し、当初予定していたオーストラリアでのデジタルメディアに関する先進事例調査やインタビュー調査が中止となった。その代替え措置として、日本国内及びオーストラリアの多文化共生に関する研究者（シドニー大学）・実践者（越前市国際交流協会、HSC 日本語教育コミュニティなど）へインタビュー調査を共同研究者らとともにオンラインで実施した。また、福井県内においてデジタルストーリーテリング・ワークショップを今後円滑に進めていくために、2022 年 5 月に学生サポーター養成講座を実施した。2022 年 12 月及び 2023 年 2 月には、「外国人のためのデジタルストーリーテリング・ワークショップ」を福井県内で活動するソーシャルワーカーの協力を得て、実施した。外国人参加者から実施後に聞き取りを行い、デジタルストーリーテリングの制作プロセスにおける課題を抽出、分析を行った。

令和 5 年度は、コロナウイルス感染症問題の状況が安定したので、2023 年 9 月にオーストラリア・シドニーにおいて、ミドルクラス移民のデジタルメディア利用と社会的結束の意識の関連に関するインタビュー調査を実施した。共同研究者であるシドニー大学研究者らと研究打ち合わせを行うとともに、シドニーで開催された Japanese studies of Australia conference2023 において、共同研究者と共にこれまでの研究成果のうち、社会的結束とジェンダーの視点からミドルクラス移民としての日系移民を調査した結果について口頭発表することができた。また、オーストラリアのミドルクラス移民のデジタルメディア利用と社会的結束の意識の関連を探索的に調査するために、シドニーの日系コミュニティを対象にウェブアンケート調査を試行的に実施し、分析を行った。加えて、文献調査やインタビュー調査で得た成果を活かして、福井県内で「デジタル・ストーリーテリング・ワークショップを福井県内のソーシャルワーカーと共同で実施した。その成果をもとに最終報告書として「デジタル・ストーリーテリングマニュアル」として出版し、県内のソーシャルワーカーや社会福祉を学ぶ学生に対して配布し、普及活動を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Hamano, Takeshi, Yoshikazu Shiobara, Miho Kobayashi	４．巻 30
２．論文標題 Creating Places of Belongings through the Maintenance of Community Languages: Experiences of Japanese Second-Generation Youths and Their Parents in Australia	５．発行年 2023年
３．雑誌名 オーストラリア研究	６．最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Shinsuke Funaki, Takeshi Hamano, Ruth Phillips	４．巻 52
２．論文標題 Multiculturalism and social cohesion: A Japanese community’s perceptions of “being Australian”	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Asian Social Work and Policy Review	６．最初と最後の頁 59-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Shinsuke Funaki, Shoichi Fujita
２．発表標題 Self-help groups and creative practices for people who stutter through digital storytelling
３．学会等名 SWESD 2022 conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hamano Takashi, Shinsuke Funaki
２．発表標題 Social and political attitudes of contemporary migrant community: A statistical study of new ethnic politics of the Japanese in Greater Sydney
３．学会等名 JSA- ASEAN e-conference Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Takeshi Hamano, Shinsuke Funaki
２．発表標題 The Japanese community in Australia and the characteristics of its social participation: Rethinking ‘social participation’ in a multi- ethnic society by focusing on gendered activism
３．学会等名 JSAA conference 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	濱野　健 (Hamano Takeshi) (40620985)	北九州市立大学・文学部・教授 (27101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	The University of Sydney			